

【第5回アフリカ開発会議サイドイベント】

アフリカ開発の展望と課題－2050年に向けて

－経済・社会構造の長期予測に基づき、より良い開発シナリオを実現するには－

国際協力機構（JICA）は、6月3日14時より、横浜インターコンチネンタルホテルにて、今後のアフリカ開発の展望と課題をテーマにシンポジウムを開催しました。2050年のアフリカの長期予測についてセンチニアル社のアーラース・シニア・アソシエイトが発表し、続いて行われたパネルディスカッションでは、ジャネ元国連アフリカ経済委員会(UNECA)事務局長、ヌワンゼ国際農業開発基金(IFAD)総裁、勝カザフスタン・ナザルバエフ大学学長が登壇しました。JICAからは荒川理事がモデレーターを務め、加藤 JICA 研究所長がパネリストとして参加しました。



国際機関、大学、援助機関の有識者が一堂に会しました。

2050年のアフリカの経済・社会構造を予測し、より良い経済・社会の実現を目指すために、アフリカ諸国の政府および開発パートナーがとるべき、具体的な政策についての議論のたたき台となるフラッグシップレポート「Development in Africa Towards 2050」の作成をJICAは米国センチニアル社とともに進めてきました。このレポートでは計量モデルを用い、経済、人口、貧困等の長期的な見通しを立て、3段階のシナリオが描かれています。本イベントはこのレポートの中間発表会として位置づけられており、得られたコメントに基づいて今後最終化されることが予定されています。

冒頭、荒川理事とアーラース氏より、「2050年にアフリカの一人当たり平均所得は17,000ドルに達する可能性がある。しかし、これは『予測』ではなく『ビジョン』に過ぎない。この目標を達成するためには今、アフリカ諸国は正しい政策を実施する必要がある。」と報告があり、目標達成に必要な視点・課題について活発な議論が行われました。ジャネ氏はガバナンスと地域統合の重要性を指摘し、ヌワンゼ総裁からは農業開発とその周辺産業の活性化が強調され、加藤所長がこれに加えてインフラや人的資本の形成が持続的成長の達成に不可欠としました。また、勝氏からはアフリカ地域全体の視点から各国の政策レベルへ如何に反映するかが重要と提起されました。

2050年へ向けてアフリカは、人口の増大と都市化の加速化に直面する見通しです。それゆえ、余剰労働力を吸収し得るだけの職を継続的に創出していくことが経済・社会秩序の安定に不可欠な要素となり得ます。特に経済構造の転換はアフリカが持続的に成長を続ける上で重要な課題となる見通しであり、民間セクターの役割が期待される分野でもあります。アフリカ各国のより持続的な経済構造への転換、民間セクターが活躍できる市場・投資環境の整備、さらに教育・保健サービスの拡充を通じた人的資本の形成も計画的に行うために、JICAはこれからも協力を続けていきます。

【第5回アフリカ開発会議サイドイベント】

なお、6月21-22日にコートジボアールで開催される予定のアフリカ・エマージング・マーケット・フォーラムでも、本イベントの成果が『アフリカ2050』レポートに反映され、発表される予定です。

■本イベントの登壇者

【プレゼンター】

- ・ テオドレ・アーラース センテナリアル米国社シニアアソシエイト

【パネリスト】

- ・ アブドゥリ・ジャネ 元国連アフリカ経済委員会事務局長
- ・ カナヨ・ヌワンゼ 国際農業開発基金総裁
- ・ 勝茂夫 カザフスタン共和国ナザルバエフ大学長(元世界銀行副総裁)
- ・ 加藤宏 JICA 研究所長
- ・ モハメッド・ベアボギ 国際農業開発基金パートナーシップ・資源動員室長

【モデレーター】

- ・ 荒川博人 JICA 理事